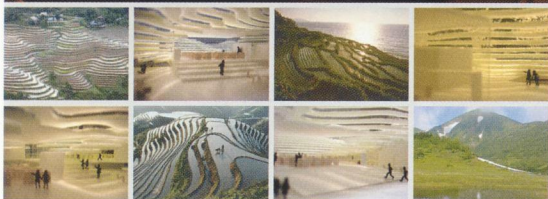
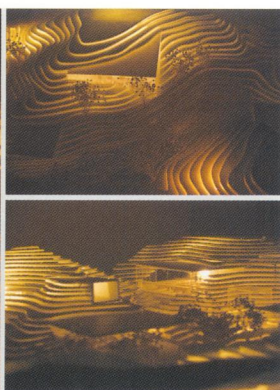
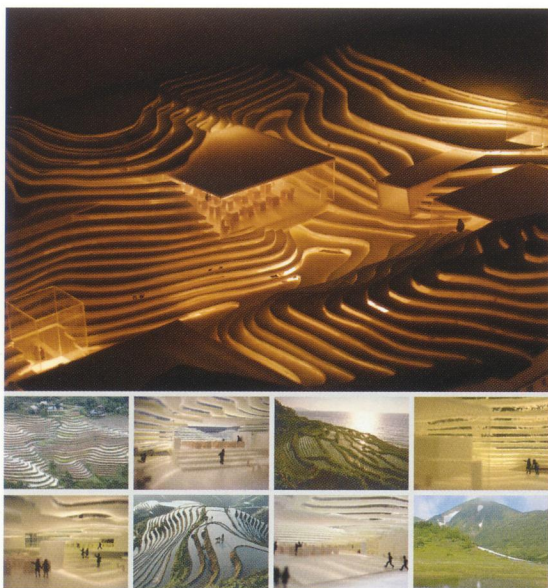


都市と子どもと学校

教育環境と自然風景の融合

河原一也 (かわらかずや)

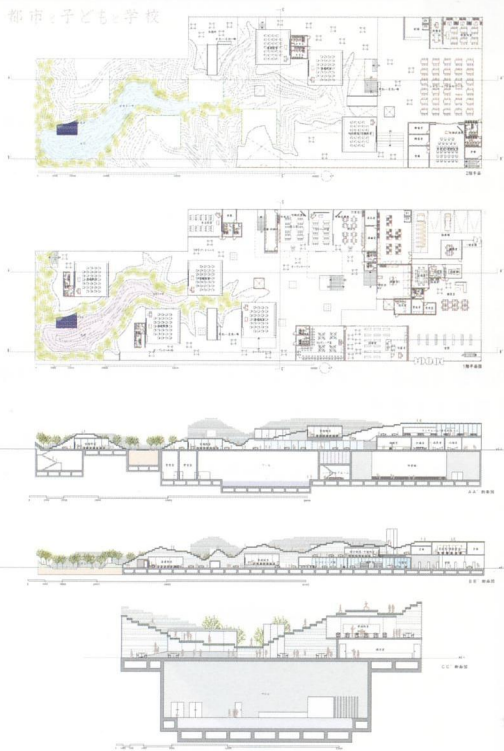
日本大学 理工学部海洋建築工学科



近年の都市に住む子ども達は昔に比べて、自然と触れ合う機会が圧倒的に少なくなっており、それによって様々な命との関わりも少なくなり、道徳性やモラルの低下といった現象が起きている。

そこで、自然との共存関係から最も離れてしまった都市という環境の中に、自然が持つ原風景である山をモチーフとしてデザインし、それを人工自然である棚田のように変形させ、そこに人工物を挿入させることによって建築と自然風景を一体化させ、人々にとって風景としてしか存在しなくなった自然を建築に融合させることによって、都市の中に新たな環境を生み、自然をより大きく意識させるきっかけとなるように計画した。

都市と子どもと学校



【講評】 この建物の持つ造形美や空間を見た時、学校建築という固定観念は捨てなければいけない時代にきていると感じた。人が快適でいられる空間が重要で、人は自然と密接に関わりあう事で刺激を受け、バランス感覚をも養っていきける。しかし、単に自然そのものを都市に挿入すればいいというものでもない。公園や屋上緑化などではない、「場

としての力が都市には必要なのだと作者は感じたのだろう。人が手を入れた事により、自然の持つ躍動感をより強調させた「棚田」を都会の小学校と融合させたのだ。この建築は、有機的な内部空間から外部をも感じるものであり、小学校自体が都市のオアシスとなるのである。人工自然を媒体としたこの手法を私は高く評価する。

【審査員：石毛 満】